



2月5日 地域安全活動感謝の会を実施

日頃お世話になっている交通指導員さんとスクールガードの皆さんをお招きして、子ども達が書いた手紙と花束をお渡し、感謝の気持ちをお伝えしました。交通指導員の平石敏さんは、14年もの間、新藤原駅前の踏切で朝の交通指導を行っています。また、つつじ銀の会と鬼怒川温泉駅前なごみ会の皆さんは、スクールガードとして鬼怒川温泉駅から、毎日、児童と一緒に歩いて、安全を見守ってくれています。おかげで、児童は安心して登下校することができました。

来年度、つつじ銀の会の皆さんは、人数減により、会としての見守り活動が出来なくなります。

同じ登校班の保護者の皆さん同士で、来年度の安全な登下校について話し合っておいてください。



不審者から身を守る避難訓練を実施

1月31日に、今市警察スクールサポーターの君島さんと藤原交番の木島所長さんに来ていただき、不審者が侵入した時の避難の仕方を訓練しました。その後、体育館で不審者の被害にあわないための行動の仕方について、教えていただきました。

〈不審者から命を守るために〉

- ①人気のないところ、暗いところには、一人で行かない。
- ②やさしい言葉に誘われて、ついて行かない。
- ③知らない人には近づかない。(6m以上離れる)
- ④捕まれてしまったら、大声を出す。暴れる。
- ⑤不審者の特徴を覚えておいて警察に連絡する。
- ⑥「いかのおすし」を意識して行動する。

学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会とは、学校の教育活動の評価や学校と保護者・地域社会の連携促進等に対して、ご意見をうかがい、協力を得て特色ある教育活動を行うために設ける組織です。今年度は2月8日(金)に、5時間目のすべてのクラスの授業を参観していただいた後に、実施しました。参加して下さった評価委員さんは、下記の5名の皆様です。

丸山智子様、福田美智子様(以上学校評議員)
山越正朗様(学校評議員・PTA会長)
竹内友絵様、小野真様(以上PTA副会長)

〈話題になったことやご意見〉

- ・子ども達が落ち着いて学習に取り組んでいる。
- ・廊下に掲示されていた絵画や版画が、とても素晴らしい作品であった。
- ・給食センターが今年度から業者委託になったが、スムーズに行われており安心した。給食の質の低下もなく好評である。
- ・これからも、給食に郷土料理を取り入れてほしい。
- ・算数の学習では、難しい問題に取り組ませて、できたよこびを感じさせて欲しい。
- ・家庭学習は大切である。家庭学習の習慣をつけさせたい。
- ・公開授業の時に英語の学習を参観したが、楽しそうだった。勉強は楽しいほうがいい。
- ・5月の金環日食観察は、一生の思い出になった。
- ・これからは理科教育に力を注ぐべきではないか。鬼怒小の理科の学習は充実している。
- ・下野新聞を使った学習を取り入れてはどうか。
- ・日光市では、ホールボディカウンターによる放射線内部被ばく量の検査を実施している。18歳以下は無料である。放射線に対する不安軽減のために、保護者が希望して受けてはどうか。
- ・旅行者から、「この小学校(鬼怒小)の児童は、あいさつがよくできる。」といわれた。今日も、よくあいさつをしていた。
- ・持久走大会の看板を見て、旅行者も一緒に応援してくれていた。看板は好評であった。
- ・子どもの写真を撮ったり、女の子に話しかけて来る大人がいるので、地域で気をつけている。
- ・ホームページの更新が、まめに行われており楽しみに見ている。

平成24年度 鬼怒川小「教育の重点」についての学校評価

本校では、全職員で1年間の教育活動についての評価（学校評価）を行っています。そして、次年度の教育活動の改善に役立てています。下記は、本年度の「教育の重点」についての学校評価結果です。

○おおむね良好

・引き続き努力していく

▲改善していく

◇ 確かな学力の向上

1 学習指導の改善

- 頑張りや工夫を認めたり、ほめたり励ましたりして学習意欲の向上に取り組むことができた。
- 「基本的な学習のきまり」をもとに指導し、落ち着いて学習に取り組ませることができた。
 - ・引き続き、各教科等において「伝え合う」「学び合う」学習を充実させていく。
- ▲学習用具のきまりを実態に合うように改善して、引き続き余計な物を持ってこないように指導していく。

2 指導体制の工夫改善

- 教師どうし協力して、複数の教師による授業を実施し、きめ細かな指導を行うことができた。
 - ・学習活動を充実させるために、これからも体験的な活動や外部人材の活用を進めていく。

◇ 豊かな心の育成

3 児童指導の充実

- 悩み調査や日常の観察等をもとに、いじめ防止や悩みの解消に全校体制で取り組むことができた。

4 道徳教育の充実

- 道徳教育の研究学校として、工夫して道徳の時間の充実に努めることができた。
- 縦割り班活動は、思いやりの心や感謝する心を育てるのに有効である。今後も充実していく。
- 図書の出数が昨年を上回っている。これからも、心を育てる読書活動を進めていく。
 - ・委員会活動等であいさつ運動に取り組んできたが、これからも家庭と協力して「あいさつ運動」を進めていく。

5 互いに高め合う集団づくり

- 児童自らが学級内での約束や学級目標を立てて実行し、よりよい学級づくりを行うことができた。

◇ 健康な体の育成

6 体力の向上

- 引き続き、活動量のある体育の授業を工夫し、体力向上に努めていく。
 - ・業間や昼休みの集会等を精選し、遊びの時間の確保に努めてきた。

7 保健・安全指導の充実

- 藤原消防署や藤原交番の協力を得て、避難訓練等を工夫して行うことができた。
 - ・感染症の予防や健康診断後の治療について、今後も家庭と協力して進めていく。

8 食育の推進

- 栄養教諭の専門性を生かして学級活動で食に関する指導を行ったり、給食時の放送で食品や料理についての放送を行ったりして、食に関する指導を充実させることができた。

◇ 教育の効果の向上

9 家庭や地域等との連携

- 小学校へのスムーズな接続に向けて、幼稚園・保育園・小学校の連携を進めることができた。
- 学校だよりや学年だよりの発行、ホームページの更新等により、積極的な情報の発信に努めることができた。
 - ・小中連携して道徳教育の研究実践に取り組むことができた。今後も、児童生徒の健やかな成長のために、小中が連携して取り組んでいかなければならない。